

4 災害履歴

4-1 過去の災害履歴

西暦	和暦	月	日	災害要因	災害の状況等
地震					
1498	明応7	9	20	明応地震 (マグニチュード8.2～8.4)	大地震で、人々は倒され、地の裂けた所から水が噴き出たという。震度は小笠で6である。
1854	安政元	12	23	安政東海地震 (マグニチュード8.4)	全県下に被害があり、当地でも全潰は中尾で11戸、山田ヶ谷で10戸、木ヶ谷で18戸、黒田で1戸、篠ヶ谷で6戸、在ヶ谷で10戸、原組で寺4軒、上組で1寺9戸、比木で14戸などであった。また白羽中西で大被害、門屋・朝比奈・合戸・塩原でも半数程度が潰れた。 各地の震度は木ヶ谷・門屋で7、中尾・山田ヶ谷・在ヶ谷・藪下ヶ谷・白羽中西で6～7、篠ヶ谷・原・上組・佐倉で6、黒田・長谷・朝比奈・合戸・塩原・御前崎・白羽で5～6であった。
1944	昭和19	12	7	東南海地震 (マグニチュード7.9)	県中・西部に被害を生じた。当地でも、白羽で全壊20戸、半壊69戸、池新田で全壊6戸、半壊12戸、高松で全壊1戸、半壊1戸、新野で全壊3戸、半壊14戸、朝比奈で半壊1戸、比木で全壊2戸、半壊11戸、佐倉で全壊6戸、半壊16戸などの被害があった。 また池新田・比木・佐倉・朝比奈・新野などの各地で、地割れが生じ、噴砂噴水の現象があった。 また白羽・神子神田で半径1mの泥丘が無数に生じた。各地の震度は、白羽(中西)で6～7、宮内で6、浜岡・比木・門屋・御前崎で5～6、玄保・西佐倉・行僧原・山ヶ谷・朝比奈・新野・新野南・新野原・蒲原・新神子で5であった。

暦	和暦	月	日	災害要因	災害の状況等
地震					
2009	平成21	8	11	駿河湾地震 (マグニチュード6.5)	西部では、掛川市及び牧之原市を中心に断水約7万戸、停電約9,500戸。 中部では、静岡市及び牧之原市を中心に、県下で死者1、負傷者311、家屋半壊6、一部損壊8,666、火災3、ブロック塀207ヶ所。 東名高速(上り)牧之原IC付近で盛土崩壊。
2011	平成23	8	1	駿河湾地震 (マグニチュード6.2)	西部では、軽症2人、住宅一部損壊14件。 中部では、重症1人、軽症9人、住宅一部損壊2件、島田市で12,000世帯で水道が白濁。
津波					
1854	安政元	12	23	安政東海地震 津波	全県沿岸に大きな被害を与えた津波であり、当地でも御前崎で5～5.5m、白羽及び佐倉で6m位の津波の高さがあったものとされている。
1944	昭和19	12	7	東南海地震津波	当地の沿岸地帯は被害はなかった。津波の高さは約1.3～2mであった。
1946	昭和21	12	21	南海地震津波	御前崎で高さ約2mの津波があった。
1960	昭和35	5	23	チリ沖地震	大規模な地震で、津波は太平洋全域に達し、県下でも地震を感じてから22時間位して津波がおしよせた。伊東では24日2時35分に現われはじめ、最大振幅140cmであった。内浦214cm、清水217cm、御前崎380cm、舞阪79cmが観測された。 このため、県下の床下浸水196戸を数え、清水においては、流木や養殖真珠に損害があった。
2010	平成22	2	27	チリ中部沿岸で発生した地震	マグニチュード8.8の巨大地震で、津波は太平洋全域に達し、県下では地震発生から23時間位して津波がおしよせた。伊東では28日14時25分頃に現れはじめ、最大波高18cmであった。下田港43cm、内浦32cm、清水21cm、御前崎54cm、舞阪20cmが観測された。 これにより、下田市で住家8棟が床下浸水した。

暦	和暦	月	日	災害要因	災害の状況等
津波					
2011	平成23	3	11	東北地方太平洋沖地震	三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震で、東北地方の沿岸では15m以上の大津波が押し寄せ、岩手・宮城・福島県の沿岸部に壊滅的な被害を与えた。 県下では、11日16時8分に津波警報(大津波)が発表され、御前崎で最大波高144cm、沼津市内浦で135cm、清水93cm、南伊豆町石廊崎で74cm、舞阪73cm、焼津83cmを観測し、下田市では住家7棟・店舗6棟が浸水した。また、伊豆や浜名地域で小型漁船数隻が転覆・水没した。
台風					
1959	昭和34	9	26	台風15号 (伊勢湾台風)	県西部で被害が大きかった。26日の御前崎の最大瞬間風速は44.4m/sである。
1962	昭和37	7	28	台風7号	県中・西部で被害があった。当地では箆川・新野川・朝比奈川が氾濫し、土砂崩れを生じた。被害は死者4人、負傷者6人、全壊13戸、半壊32戸、床上浸水191戸、床下浸水934戸などであった。
1966	昭和41	9	25	台風26号	全県下特に中部で被害大であった。御前崎で最大瞬間風速50.5m/sの強風を記録した。
1974	昭和49	7	7～8	台風8号 (七夕豪雨)	沖の鳥島付近の近海で発生した台風8号は次第に北上して7月7日夕刻ごろには対馬海峡を通過し、日本海中部に達した。一方梅雨前線は東海地方西部にあったが、台風8号の北東進にあわせ7月7日夕刻ごろには、静岡県西部県境に達した。県境に達した梅雨前線の動きは非常に遅く本県を通過するのに7～10時間を要した。その時時間雨量50～70mmの強雨が継続し、24時間降雨量は508mmという気象台創設以来の大記録となり、この大雨で県下各地では、山・がけ崩れ、河川洪水により冠水などの災害が続出し、特に静岡、清水を中心に大水害となった。

暦	和暦	月	日	災害要因	災害の状況等
台風					
1982	昭和57	9	12～13	台風18号	9月6日グアム島付近で発生した台風第18号は、大型で並の勢力(968hpa)を保ちながら、12日18時に、御前崎西方へ上陸し、東日本を横断した。 本州南岸沿いに停滞していた前線が、台風の影響に伴い活発化し11日夜半から12日午前にかけて県下に大雨を降らせた。牧ノ原では12日16時から17時の1時間に91ミリmmの豪雨が降った。 (降り始めからの総雨量) 天城山676mm 牧之原628mm 掛川 504mm 御前崎459mm
2004	平成16	10	9	台風22号	10月4日フィリピンの東の海上で発生した台風第22号は、沖の鳥島の南海上で「非常に強い台風」となり、中心気圧920hpa、最大風速50m/sまで発達し、その後も非常に強い勢力を保ったまま、9日16時に、伊豆半島へ上陸した。 県内は9日午後に暴風域に入り、石廊崎では最大瞬間風速67.6m/sの非常に強い風を観測した。また、台風の影響に伴い東海地方から関東地方にかけて停滞していた前線の活動が活発となり、御前崎では9日15時に1時間89mmの豪雨を記録した。 (降り始めからの総雨量) 御前崎420.5mm 清水397mm
2024	令和6	8 9	27～ 2	台風10号	8月22日にマリアナ諸島近海で発生した台風10号は発達しながら北上。その後、進路を西北西に変え強い勢力を維持しながら九州方面に接近し、27日に急速に非常に強い勢力となり、奄美の北東海上を通過しました。28日は勢力を保ったまま置久島の西を通過し、29日8時頃に鹿児島県薩摩川内市付近に上陸。その後、ゆっくりと九州を縦断しながら瀬戸内海に抜け、四国を通過し太平洋へ進んだあと9月1日12時に熱帯低気圧へと変わりました。

					(降り始めからの総雨量) 御前崎638mm
豪雨					
1968	昭和43	7	5～6	梅雨前線	6日1時から2時の間の1時間雨量は53.0mmで、5日夜半から6日朝にかけ、土砂崩れ6箇所を生じ、また床下浸水14戸、田畑冠水150haに及んだ。
1972	昭和47	10	22	秋雨前線	1時間雨量87.0mmの豪雨で、浸水家屋床上1戸、床下15戸、宅地欠壊1箇所の被害があった。
1976	昭和51	7	11	梅雨前線	7月10日黄海にあった低気圧が日本海西部に入った。 一方、三陸はるか東海上にあった高気圧(1024hpa)が次第に強まり、本州東海上に根強く張り出していたため、静岡県西方に位置していた気圧の谷の東進を遅らせ大雨の原因となった。 11日には、梅雨前線が北上し伊豆方面に大雨を降らせた。総雨量は伊豆半島400mm～500mm、県西部200mm～250mm、山間部50mm～100mm。
竜巻					
1962	昭和37	8	26	台風14号	上岬・下岬地内では午前8時25分ごろ、突如突風が起こり、アッという間に家屋など26戸が全半壊する大きな被害を出した。県下各地に突風が発生したが、このうち2つが当地を襲った。約300mの間隔で竜巻がジャンプした形跡がある。
2022	令和4	9	23	台風15号	9月23日21時10分頃、御前崎市白羽区中原地内・新谷地内から牧之原市新庄にかけて突風が発生し、鉄骨系プレハブ倉庫の比較的広い範囲での屋根ふき材のかく離などの被害があった。 この突風をもたらした現象は、竜巻の可能性が高いと判断された。 家屋被害は計23棟。

4-2 火災発生状況

	出火件数						焼損棟数				焼損面積(㎡)		死傷者		損害額 (千円)
	総数	建物	林野	車両	船舶	その他	全焼	半焼	部分焼	ぼや	建物床面積	林野、その他	死者	傷者	
平成26年	18	2	3	0	1	12	0	1	0	1	34.65	52.879	0	1	151,066
平成27年	11	7	0	1	0	3	1	1	3	3	192.3	2.59	1	2	40,203
平成28年	14	7	0	0	0	7	2	0	3	3	302.5	1228	1	1	7,375
平成29年	15	6	0	2	0	7	1	0	1	5	71	1281	1	1	6,480
平成30年	11	8	0	0	0	3	5	0	0	6	232	684	0	4	4,565
令和元年	8	3	0	1	0	4	1	0	2	0	156	996	0	1	30,586
令和2年	11	6	0	1	0	4	2	2	4	2	218.27	150.3	2	0	11,201
令和3年	18	1	0	1	0	16	0	0	1	0	105.0	570.0	0	0	68,415
令和4年	11	6	0	2	0	3	3	1	2	2	1,352.4	18.49	0	0	33,459
令和5年	8	3	1	1	0	3	2	0	0	1	314.53	1,635.76	0	0	15,961